

柏市地域公共交通網形成計画の進捗 状況とこれからの方向性について

令和4年11月22日
柏市交通政策課

柏市地域公共交通網形成計画について

柏市地域公共交通網形成計画(平成31年2月策定)

〔計画の目的〕

超高齢社会に対応した持続可能な都市を目指すため、まちづくりと連携した公共交通網の整備を進めるもの

〔計画期間〕

2018年度～2037年度
(短期 : 2018年度～2022年度) ⇒ **今年度終了**
(中長期 : 2023年度～2037年度)

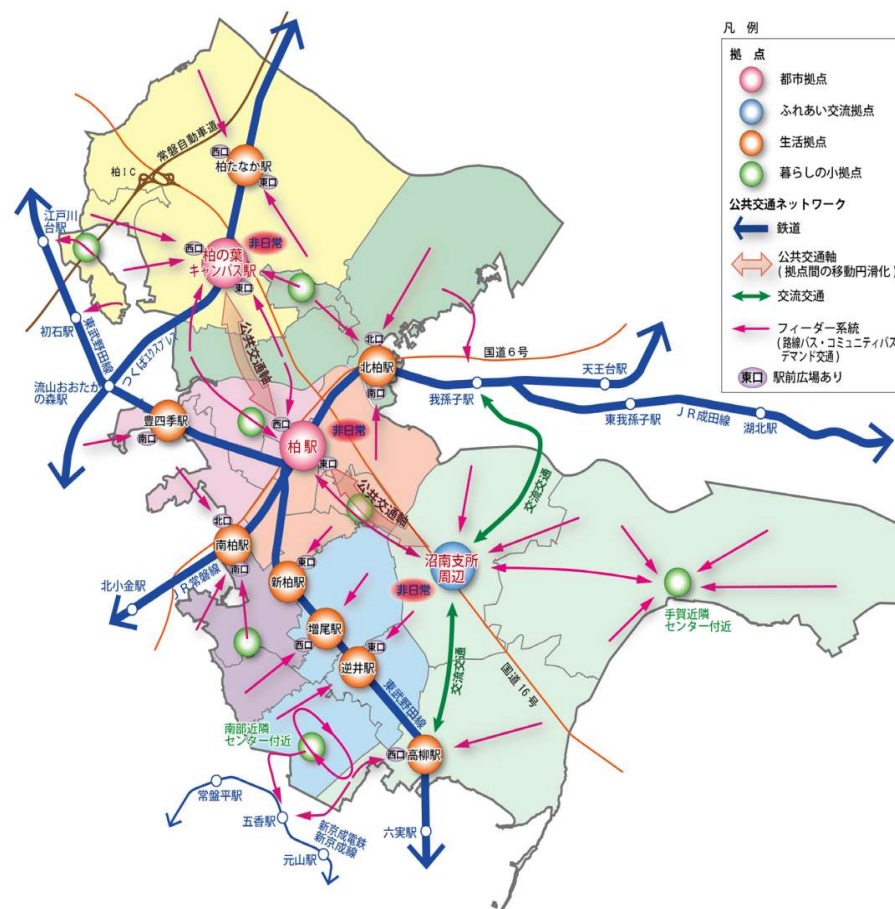
次年度評価

〔基本方針〕

次の5つの視点を踏まえ、取り組みを進めます。

- ①地域の状況に応じたバス路線の再編
- ②交通モード間の円滑化
- ③高齢者等に配慮した交通環境の構築
- ④中心市街地活性化に向けた公共交通と自動車の共存
- ⑤公共交通利用促進

目指すべき公共交通ネットワークイメージ



柏市地域公共交通網形成計画について

短期施策(2018年度~2022年度)一覧

検討の方向性	短期施策	施策内容
① 地域状況に応じたバス路線への再構築	A. 公共交通軸の強化	乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸(柏の葉キャンパス駅~柏駅~沼南庁舎周辺)の利便性・速達性の向上を図ります。
	B. 企業バス等との連携検討	交通弱者などの移動手段として、病院や商業施設などが独自で運行している送迎バスの活用検討を進めます。導入に際しては自動運転等の新たな技術に関しても検討を行います
	C. コミュニティ交通の運行形態見直し	現在運行している「かしわ乗合ジャンボタクシー」「カシワニクル」の再編により、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。
	D. 公共交通空白不便地域における対応策の検討	市内の公共交通空白不便地域において、地域の需要に対応した、公共施設や商業施設等へのアクセスを検討します。
② 交通モード間の円滑化を推進	E. 駅前広場の待合環境整備	駅前広場を中心にバス、タクシー乗場の利用環境改善のため上屋、ベンチの整備を図ります。
	F. ICTを活用した情報案内の実施	鉄道やバスの乗り継ぎ、運行案内のため、統合サイトやアプリの整備を行うほか、来訪者でもわかりやすいよう、交通結節点での情報案内の構築を図ります。
③ 高齢者等に配慮した交通環境の構築	G. 車両バリアフリー化の促進	バリアフリー化をいっそう促進するためにノンステップバス、ユニバーサルデザイン(UD)タクシーの導入を促進します。
④ 中心市街地活性化に向けた公共交通と自動車の共存	H. ショットガン方式のタクシープール導入	柏駅東口周辺道路の客待ちタクシー列を解消するため、ショットガン方式によるタクシープールの導入を図ります。
⑤ 公共交通利用促進	I. 公共交通の周知施策	柏市内小学校の授業において、バス事業者と連携してモビリティマネジメント教室を実施します。また、柏市バス路線マップの配布・作成を継続して実施します。

柏市地域公共交通網形成計画について

中長期施策(2023年度～2037年度)一覧

検討の方向性	中長期施策	施策内容
① 地域状況に応じたバス路線への再構築	a. 公共交通軸のバス路線再編	柏駅を起点に柏の葉キャンパス駅又は沼南庁舎周辺を経由して他の地域まで一連の区間として運行しているバス路線について、幹線交通(公共交通軸区間のみの運行)及びフィーダー(支線)交通区間に再編します。
	b. 交流交通軸の強化	我孫子駅、高柳駅とふれあい交流拠点を繋ぐ交流交通を確保します。
	c. フィーダー系統路線の見直し	拠点到繋がるフィーダー系統については、地域の状況に応じて、路線の見直しを実施します。
	d. バス速達性向上のための道路整備促進	柏駅～柏の葉キャンパス駅を結ぶ新たな都市計画道路を整備します。
	e. 新たな交通サービスの提供	将来のまちづくり等も踏まえた、魅力ある新交通システムの検討を行います。ICTの活用や自動運転等の新たな技術に関する検討も行います。
	f. 公共交通空白不便地域における公共交通の適切な見直し	コミュニティ交通に関して、地域の状況に応じて見直しを実施し、より適切な運行の検討を行います。公共交通空白不便地域をカバーする交通については、地域住民が主体となった協議会との協議・連携を踏まえ、確保を図ります。
	g. 周辺施設との連携検討	商業施設等と連携して、公共交通を利用した来訪者への支援策を実施します。
② 交通モード間の円滑化を推進	h. 鉄道駅の交通結節点の機能強化	柏駅東西口、北柏駅北口、高柳駅東口駅前広場整備により鉄道と他の公共交通との結節点機能を強化します。
	i. 賑わいのある拠点の整備・強化	沼南のふれあい交流拠点の核として公共交通軸及び交流交通の受皿となるターミナルを整備します。
	j. 地域施設と連携した快適な待合環境の確保	バス路線沿道の公共施設や商業施設と連携し、待合スペースの確保や接近情報の提供を行い、安全で快適にバスを待つことができる環境づくりを進めます。
	k. サイクル&バスライドの促進	駐輪環境の整備により、サイクル&バスライドの促進を図ります。
③ 高齢者等に配慮した交通環境の構築	l. 高齢者等の移動支援	高齢者等が公共交通を使いやすいよう、民間企業とも連携して支援制度の構築を図ります。
④ 中心市街地活性化に向けた公共交通と自動車の共存	m. 中心部への自動車流入抑制	駅周辺の細街路等に自動車ができるだけ流入しないよう、交通処理を進めます。上の交通処理とあわせて、フリンジパーキング施策による自動車での来訪者の流入規制を図ります。
⑤ 公共交通利用促進	n. 公共交通の周知施策	出前講座の実施など、協働で交通施策を推進するような意識付けを促す施策を実施します。

計画推進スケジュール 進行の管理

社会経済環境の変化等により、当初期待された事業による影響・効果が発現しない可能性も考えられます。

⇒2020年度より、新型コロナウイルスの影響を受け、公共交通の利用状況に変化が生じています。

今年度(2022年度), 短期施策が終了するため、その結果を踏まえたうえで計画の評価を行いたいと考えています。



施策実施段階で改めて影響、効果を確認(Check)したうえで、必要に応じて施策内容を見直す(Action)というように、より良い効果発現に向けて、PDCAサイクルによる不断の努力により、継続的な施策の見直し、実施が必要となると考えています。

次年度は計画を評価する年

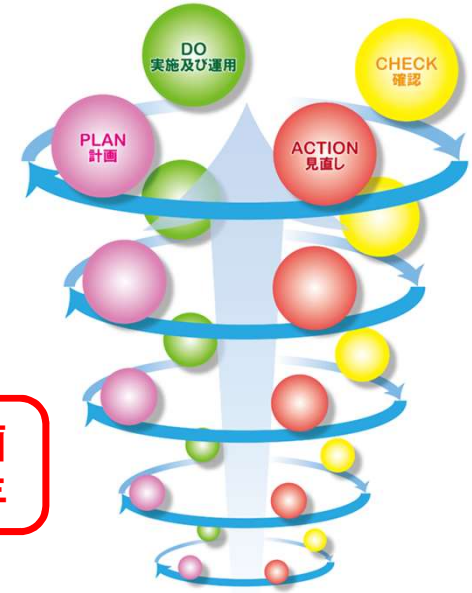


表 5-5 評価・検証による計画推進のイメージ

(年度)

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年~2037年	
策定	5年間での取組				評価	5年間での取組				評価	評価
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
			コロナ								
										必要に応じて計画の見直し	
毎年、協議会において確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※利用状況や経済性などの観点から進行の管理をしていきます。

短期施策A. 公共交通軸の強化

バス乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸（柏の葉キャンパス駅～柏駅～沼南庁舎周辺）の利便性・速達性の向上を図ります。

実施主体: 柏市, バス事業者
 実施時期: 2019～2022年度



図 4-3 公共交通軸

系統	H30	R1	R2	R3
柏22	49	49	49	49
柏25	17	17	17	17
柏27	28	26	26	26
柏31	132	133	133	130
柏35	32	33	33	33
柏09	69	69	103	103
西柏02	45	45	45	45

行き先	H30	R1	R2	R3
沼南庁舎周辺 東武バス (5路線計)	258	258	258	255
柏の葉 キャンパス駅	114	114	148	148

数値は平日往復の合計(本)

運行本数の変化
 19時台⇒2本
 20時台⇒1本
 } 計3本減

表 4-1 対象路線

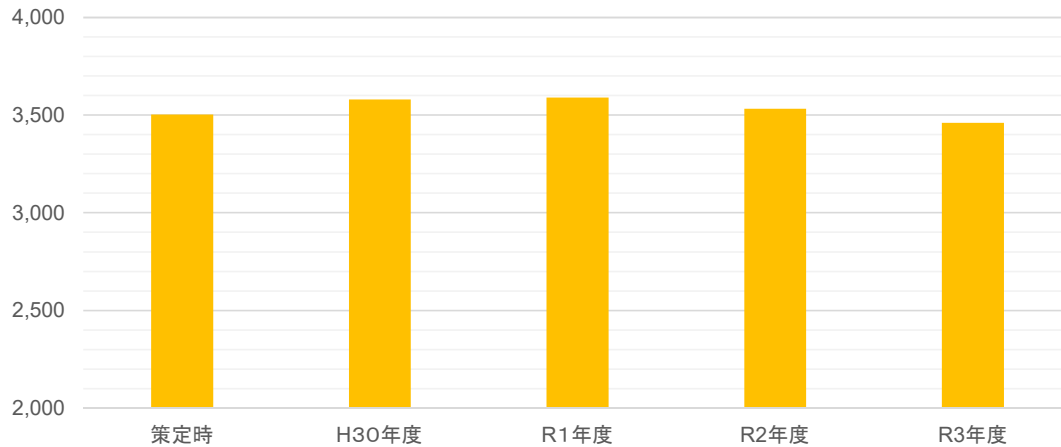
路線記号	経路	幹線区間
柏 22	柏駅～沼南庁舎～小野塚台	各路線の 柏駅～沼南庁舎
柏 25	柏駅～沼南庁舎～布瀬	
柏 27	柏駅～沼南庁舎～手賀の丘公園	
柏 31	柏駅～沼南庁舎～セブンパークアリオ柏～沼南車庫	
柏 35	柏駅～沼南庁舎～工業団地中央～沼南車庫	
柏 09	柏の葉キャンパス駅東口～柏駅	柏駅～柏の葉
西柏 02	柏の葉キャンパス駅西口～柏駅	キャンパス駅

指標	目標値
● 柏市内のバス運行本数	3,500本/日以上
● バス利用者数	約1,890万人/年以上(現況よりも5%以上の利用増加を図る。)

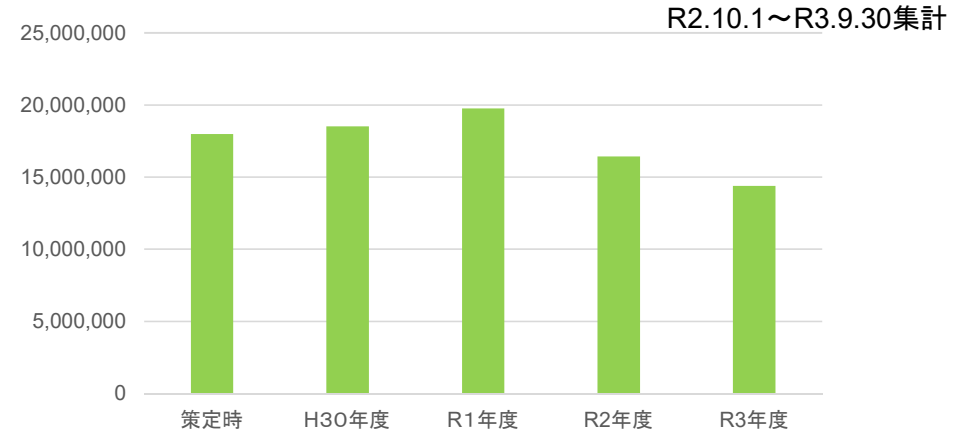
短期施策A. 公共交通軸の強化

バス乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸（柏の葉キャンパス駅～柏駅～沼南庁舎周辺）の利便性・速達性の向上を図ります。

柏市内のバス運行本数(本/年)



バス利用者数の変化(人/年)



【進捗状況】

指標	策定時	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
● 柏市内のバス運行本数	3,503本	3,581本	3,590本	3,533本	3,461本
● バス利用者数	18,000,000人	18,535,880人	19,769,838人	16,441,350人	14,413,182人

※ 柏市内のバス運行本数は、東武バスイースト・阪東自動車・松戸新京成バス・ちばレインボーバスの市内を通る便の合計値。バス利用者数は、東武バスイースト、阪東自動車の市内を通る便の利用者数の合計値。

【今後の方向性】

・アフターコロナを見据えた利用者の状況を考慮しつつ、来年度から順次始まるバス事業者を対象とした『働き方改革』にも則した運行本数やパターンダイヤの検討等、公共交通軸の利便性・速達性向上に努めていく。

短期施策A. 公共交通軸の強化

バス乗降客の状況を考慮しつつ、公共交通軸（柏の葉キャンパス駅～柏駅～沼南庁舎周辺）の利便性・速達性の向上を図ります。

■コロナ渦における行動制限期間の一覧

	期間	R1			R2												R3												R4					
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
緊急事態宣言	R2.4.7～R2.5.25						■	■																										
緊急事態宣言	R3.1.8～R3.3.21																																	
まん延防止等重点措置	R3.4.20～R3.8.1																																	
緊急事態宣言	R3.8.2～R3.9.30																																	
まん延防止等重点措置	R4.1.21～R4.3.21																																	
		←————→												←————→																				
		利用者数集計期間 (R2)												利用者数集計期間 (R3)																				

■色が付いている箇所が外出制限期間
 令和3年は1年の3/4が行動制限をかけていた。
 ⇒バス利用者減に大きく関与

短期施策B.企業バス等との連携検討

交通弱者などの移動手段として、病院や商業施設などが独自で運行している送迎バスの活用検討を進めます。導入に際しては自動運転等の新たな技術に関する検討を行います。

実施主体：柏市，商業施設事業者，病院，学校等

実施時期：2019～2022年度

【進捗状況】

・通学バスの有効活用について検討中

【今後の方向性】

・公共交通空白不便地域の対応策となる地域の移動手段のひとつにする案も検討。

・市内の観光資源のひとつである手賀沼等の回遊性向上のため、生徒の利用日時以外で有効活用も検討。

■通学バスのイメージ



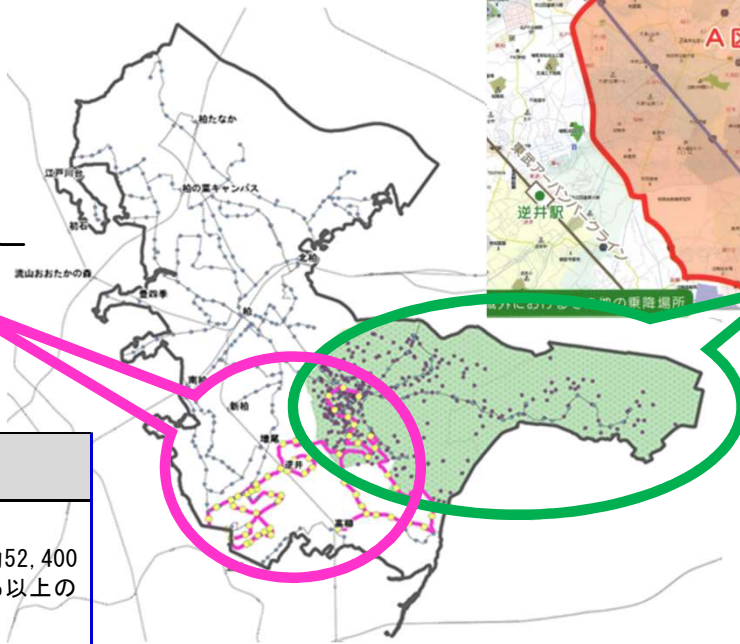
指標	目標値
● 企業バス等と連携した地域数	企業バス等と連携した地域数：4地域（北部・中央・南部・東部で連携する。）バス路線と重複しないルートを実行する企業バスと連携し、市内各地域（北部・中央・南部・東部）の移動手段確保を図る。

短期施策C.コミュニティ交通の運行形態見直し

現在運行している「かしわ乗合ジャンボタクシー」、「カシワニクル」の再編により、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。



■かしわ乗合ジャンボタクシー・カシワニクル運行図



指標	目標値
●ジャンボタクシー利用者数	コミュニティ交通利用者：約52,400人/年 以上（現況よりも5%以上の利用増加を図る）
●カシワニクル利用者数	

短期施策C.コミュニティ交通の運行形態見直し

現在運行している「かしわ乗合ジャンボタクシー」, 「カシワニクル」の再編により、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。

実施主体: 柏市, タクシー事業者

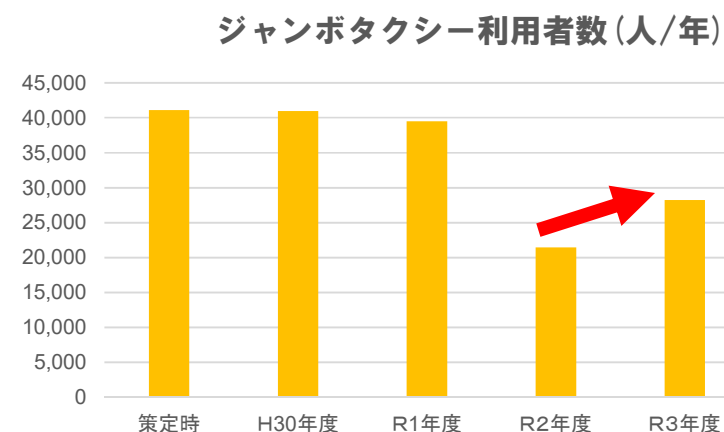
実施時期: 2020~2022年度

【進捗状況】

指標	策定時	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
ジャンボタクシー利用者数	41,135人	40,990人	39,497人	21,450人	28,230人
カシワニクル利用者数	8,766人	9,881人	9,663人	8,444人	10,555人

・コロナの影響で一時利用者数が落ち込んだものの、ジャンボタクシーは利用者が戻りつつある。カシワニクルは利用者数が過去最高を更新

利用者コロナ前(H.30)と比較してR3は70%まで利用者が戻りつつある。



短期施策C.コミュニティ交通の運行形態見直し

現在運行している「かしわ乗合ジャンボタクシー」, 「カシワニクル」の再編により、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。

【ジャンボタクシーのルート・ダイヤ変更に関するスケジュール】

【当初予定】

- 令和4年7月 地域公共交通部会で変更案の承認
- 令和4年7月～ 運輸支局等への手続き開始
- 令和4年9月 周知
(広報誌, ポスター, フライヤー)
- 令和4年12月～ 新しいルート・ダイヤでの運行開始
※愛称・ラッピング等も合わせて実施

【変更予定】

- 令和4年7月 地域公共交通部会で変更案の承認
- 令和4年7月～ 運輸支局等への手続き開始
- 令和4年10月～ 周知
(広報誌, ポスター, フライヤー)
ラッピングデザインの選定
- 令和5年2月～ 新しいルート・ダイヤでの運行開始
※愛称・ラッピング等も合わせて実施

短期施策C.コミュニティ交通の運行形態見直し

現在運行している「かしわ乗合ジャンボタクシー」, 「カシワニクル」の再編により、更なる利便性の向上を図るとともに、周知施策を実施します。

【進捗状況】

- ・酒井根東町会, 酒井根町会, 南増尾町会の3町会で駅への移動実態アンケートを実施
⇒常盤平駅の利用実態の概要が把握できた。
- ・令和5年2月 ジャンボタクシーの路線および時刻表改訂予定

【完了事項】

- ・令和2年 カシワニクルの運行エリア拡大



変更案

常盤平駅までの延伸

一部区間カシワニクルへの変更を検討

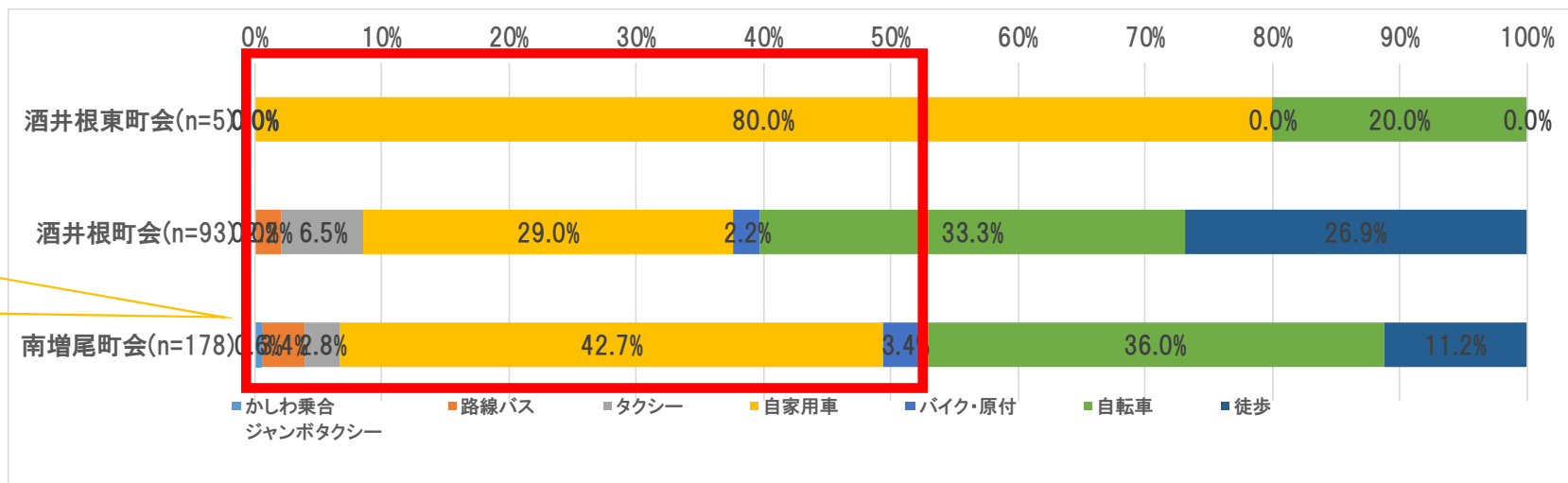
【今後の方向性】

- ・アンケート結果を町会へ順次ご説明する。
- ・アンケート結果は出たものの、町会ごとの回答数(母数)に差があるため、一概に結論を述べるのが難しいことから、需要に対する運行形態の見直しも引き続き検討をいたします。

○クロス集計（最も利用する駅が「常盤平駅」の方）

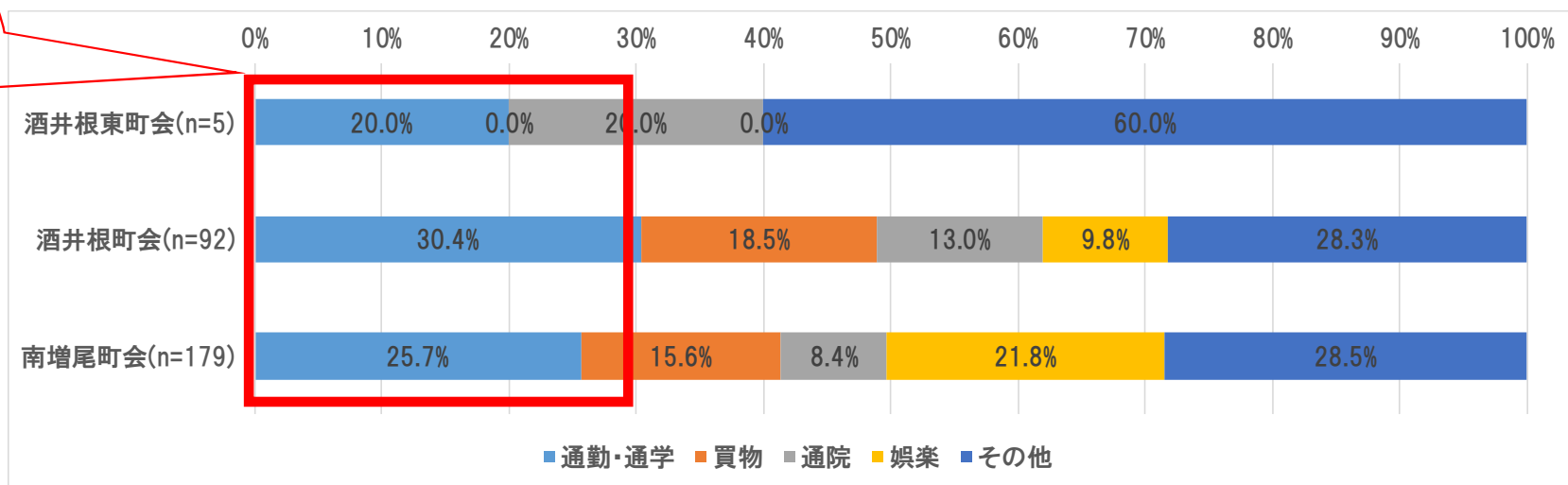
移動手段

常盤平駅まで行かれる方の多くが自動車、自転車での移動であった。



町会ごとに回答数の差はあれど、明確な利用目的 ⇒ 『通勤・通学』が多い印象

目的



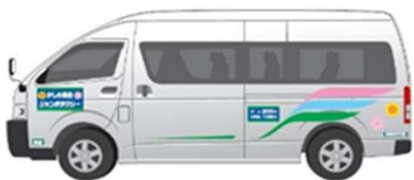
○クロス集計（最も利用する駅以外に利用したい駅が「常盤平駅」の方）

目的

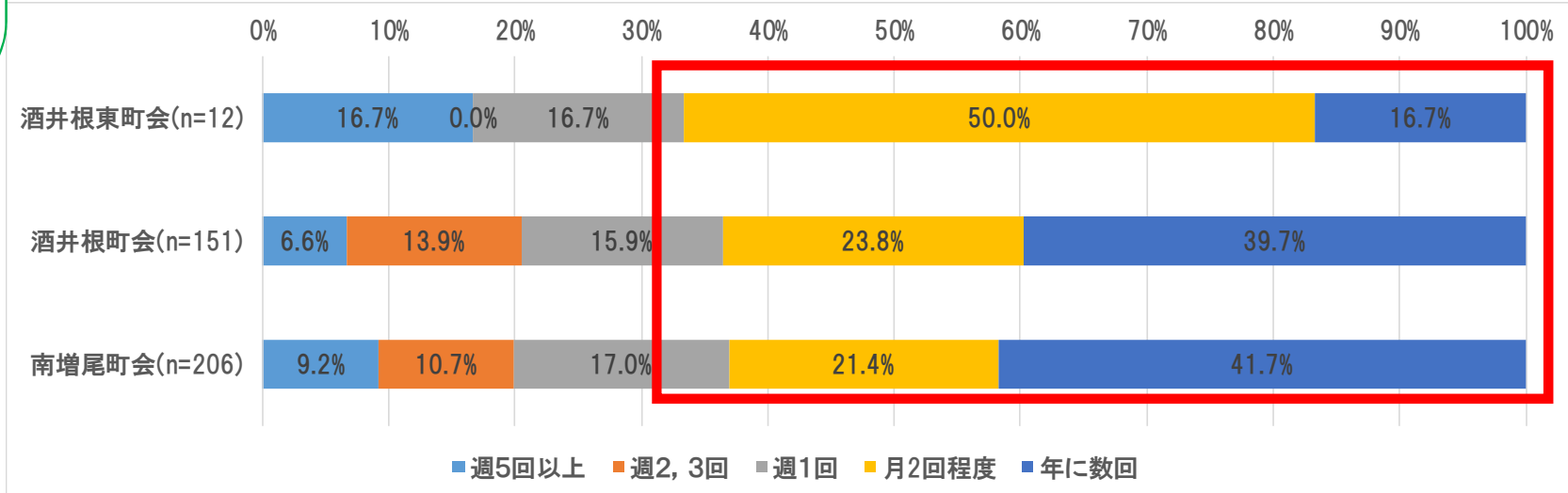
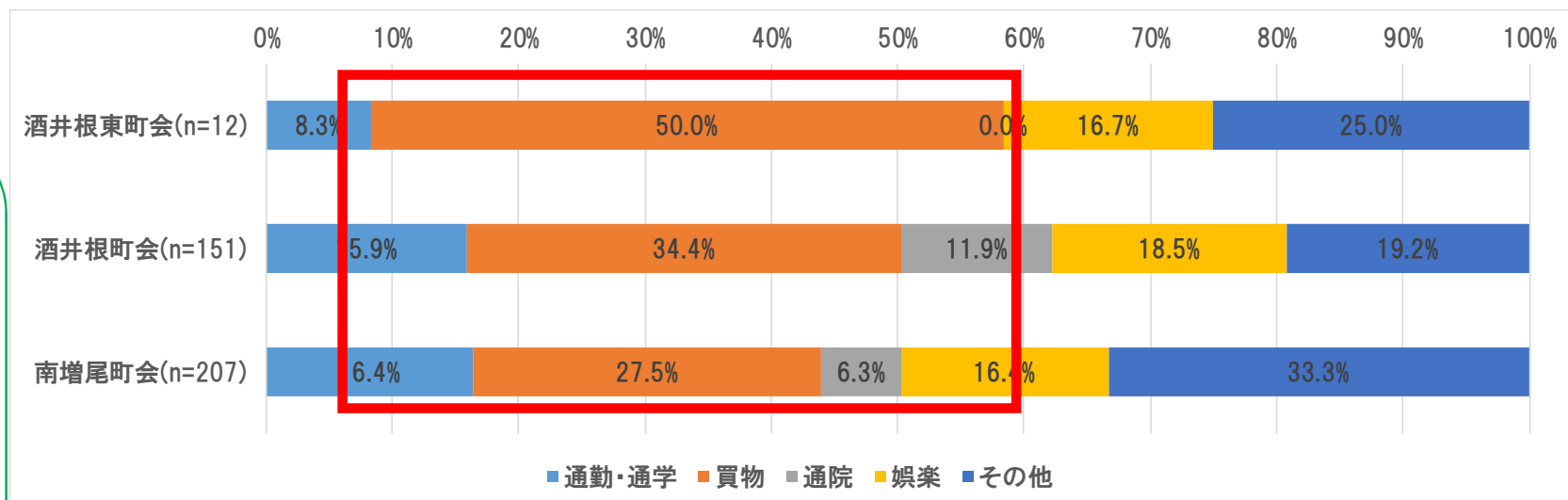
利用目的⇒『買物』

利用頻度
⇒『月2回程度～年に数回』

町会により回答数(母数)が大きく異なるため、一概には結論付けられないが、常盤平駅までの延伸案に対する検討資料になった。



利用頻度



短期施策D. 公共交通空白不便地域における対応策の検討

市内の公共交通空白不便地域において、地域の需要に対応した、公共施設や商業施設等へのアクセスを検討します。

実施主体：柏市，バス事業者，タクシー事業者
 実施時期：2019～2022年度

【進捗状況】

- 各公共交通空白不便地域の状況を整理のため、順次町会ヒアリングを実施していきたい。
- その中で、先行して4地域にヒアリングを実施したのち、3町会にヒアリングを実施
- 『とねっこタクシー』が運行2年目に突入

【今後の方向性】

- 他の交通空白地域を対象にヒアリング調査を行い、地域主体の交通を導入するか検討する。

指標	目標値
● 公共交通空白不便地域の圏域	圏域：24.3%以下にする 可住地域内の公共交通空白不便地域解消を目指す。

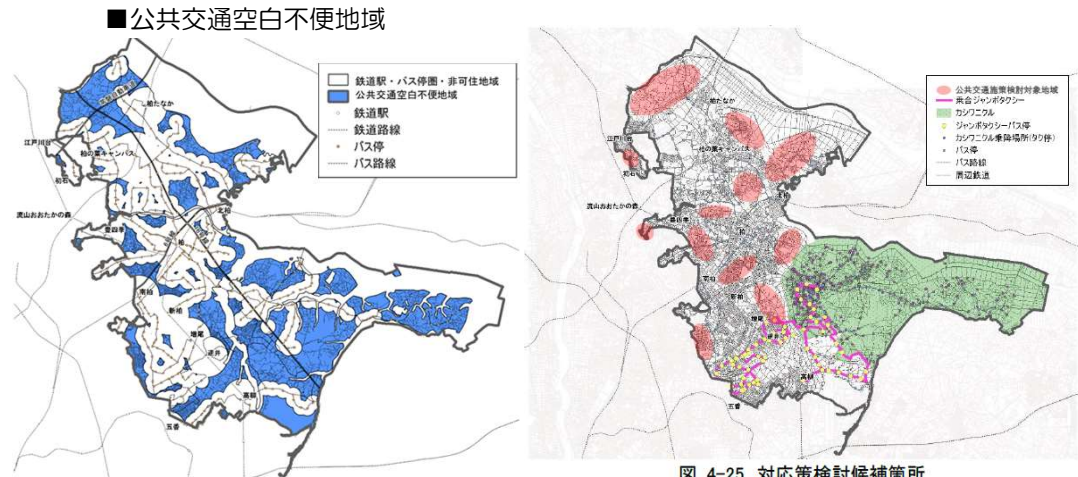
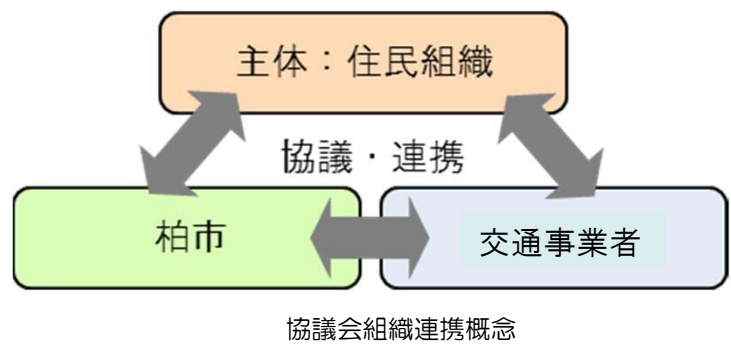


図 4-25 対応策検討候補箇所



協議会組織連携概念

短期施策D. 公共交通空白不便地域における対応策の検討

市内の公共交通空白不便地域において、地域の需要に対応した、公共施設や商業施設等へのアクセスを検討します。

【ご利用状況】

・利用者0人が今まで一度もなく、多い時には3～4台/日の配車があることもある。

継続的なご利用、また利用者からご好評いただいている。

・利根町会を運行している買い物支援タクシー『とねっこタクシー』が好評につき、2年目も継続運行

【今後の方向性】

・地域が主体となった運行に向け、運行導入マニュアルを作成する。

■利根町会を運行しているとねっこタクシー



短期施策D. 公共交通空白不便地域における対応策の検討

市内の公共交通空白不便地域において、地域の需要に対応した、公共施設や商業施設等へのアクセスを検討します。

■とねっこタクシーの利用実績 (集計期間: R3.10.26~R4.10.25)

分類	数値	単位
利用者数	222	人
マミーマート	84	人
モラージュ	138	人
運行回数	53	回
マミーマート	25	回
モラージュ	28	回
一日あたりの利用者数	4.19	人/日
マミーマート	3.36	人/日
モラージュ	4.93	人/日
一日の最大乗車人数	11	人
一日の最小乗車人数	2	人



短期施策E. 駅前広場の待合環境整備

駅前広場を中心にバス、タクシー乗場の利用環境改善のため上屋、ベンチの整備を図ります。

実施主体：柏市

実施時期：2020年度～

【進捗状況】

・増尾駅西口、南柏駅東口にベンチを設置予定

【今後の方向性】

・上屋の設置についても、駅前広場の整備に合わせて検討していく。

指標	目標値
● 駅前広場の乗換え環境整備	駅前広場の待合環境整備駅数：3 駅 ※市内全駅で上屋、ベンチ等を整備する。



短期施策F. ICTを活用した情報案内の実施

鉄道やバスの乗り継ぎ、運行案内のため、統合サイトやアプリの整備を行うほか、来訪者でもわかりやすいよう、交通結節点での情報案内の構築を図ります。

実施主体：柏市，鉄道事業者，バス事業者
 実施時期：2020年度～

【進捗状況】

・柏駅東口のペDESTリアンデッキ上にデジタルサイネージを設置予定（詳細は調整中）

【今後の方向性】

・特に，来訪者数が多い柏駅については，来訪者でもわかりやすい情報案内の構築を検討していく。

■ 柏駅東口にデジタルサイネージを設置予定



指標	目標値
● ICTを活用した情報案内板の整備数	情報案内板の整備数：4個

短期施策G. 車両バリアフリー化の促進

バリアフリー化をいっそう促進するためにノンステップバス、ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入を促進します。

実施主体：柏市，バス事業者，タクシー事業者

実施時期：2018年度～

■ノンステップバス車両



■ユニバーサルデザインタクシー車両



■ユニバーサルデザインタクシー使用例



短期施策G. 車両バリアフリー化の促進

バリアフリー化をいっそう促進するためにノンステップバス、ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入を促進します。

【進捗状況】

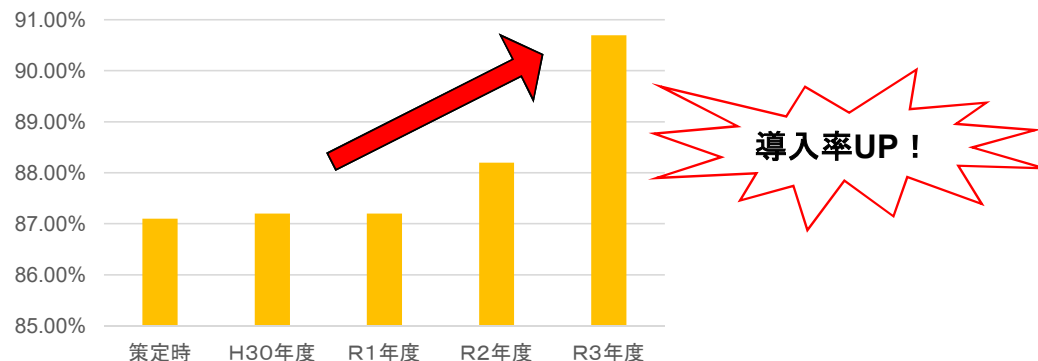
指標	策定時	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
ノンステップバス導入率	87.1%	87.2%	87.2%	88.2%	90.7%
ユニバーサルデザインタクシー導入率	3.0%	7.2%	10.9%	16.0%	20.1%

【今後の方向性】

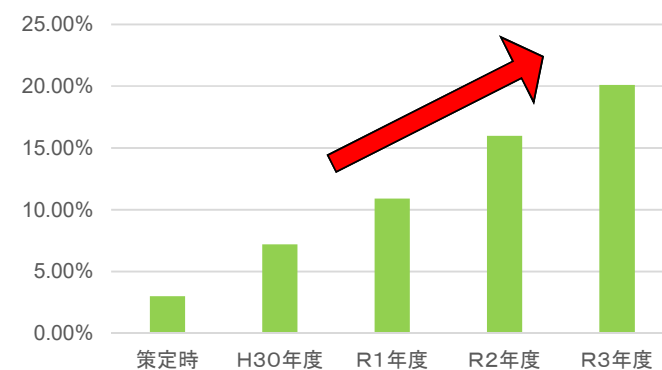
・高齢者をはじめ、誰もが利用しやすい車両の導入を引き続き促進していく。

指標	目標値
●ノンステップバス導入率	ノンステップバス導入率：90%を目指す
●ユニバーサルデザインタクシー導入率	ユニバーサルデザインタクシー導入率：3%を目指す

ノンステップバス導入率(%)



ユニバーサルデザインタクシー導入率(%)



短期施策H. ショットガン方式のタクシープール導入

柏駅東口周辺道路の客待ちタクシー列を解消するため、ショットガン方式によるタクシープールの導入を図ります。

実施主体：柏市，タクシー事業者
実施時期：2019～2022年度

【進捗状況】

・市役所の駐車場等，平面駐車場でのショットガン形式でのタクシープールを導入

【今後の方向性】

・コロナの影響もあり，タクシー利用者が減少傾向にあった昨今において，今後の利用状況も見ながら全体的な視点で検討していく。

■タクシー待機列の様子



指標	目標値
● タクシープールの導入 柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数	柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数：0台 社会実験の結果を踏まえ、恒久的に利用出来るタクシープールを導入することで、交通広場外のタクシー待機列解消を図る。

短期施策I. 公共交通の周知施策

柏市内小学校の授業において、バス事業者と連携してモビリティマネジメント教室を実施します。また、柏市バス路線マップの配布・作成を継続して実施します。

実施主体: 柏市, 教育委員会, バス事業者

実施時期: 2018年度～

■ 柏市バス路線図マップ2022



リニューアル予定

■ バス乗り方教室の実施風景



【進捗状況】

指標	策定時	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
バスマップ配布	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部	20,000部
バス乗り方教室 (小学校2年生)	-	6校	6校	0校	0校

【今後の方向性】

- ・柏市バス路線図マップの作成・配布を継続して実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、バス事業者と連携し、バス乗り方教室を再開を検討する。
- ・アフターコロナを見据えたMMの在り方を検討する。

指標	目標値
● 周知施策実施状況	バスマップ配布: 2万部 小学校でのモビリティマネジメント教室の実施: 全校

【参考】公共交通事業者燃料価格高騰対策支援事業について

○新型コロナウイルス感染症の長期化や昨今の物価高騰による経済負担の増加により、市民生活や地域経済に欠かすことのできない重要な交通インフラを維持していくことを目的に、市では公共交通事業者を対象に燃料価格等の高騰への支援を実施。（計： **4,592万円**）

対象者		支援金額
路線バス	4事業者	1台当たり16万円
タクシー	法人	11事業者 1台当たり4万円
	個人	